

編集後記

「臨床評価」誌刊行50周年を祝う巻末に執筆の栄誉を賜ったことを誇りに思う。なんの因果か、折しも時は、新型コロナウイルスパンデミックに対するワクチン戦略の検証期に入っている。

“薬物は、人体にとって、ほとんど常に異物である。”

本年（2023年）はその初版から125年を祝う、メルクマニュアル（日本ではMSDマニュアル）第16版の日本語版初版（1994年刊）の臨床薬理のセクション冒頭の言葉である。1994年に本書をわが国で初めて完訳した時、私はこの言葉に接し、その当たり前の事実を臨床薬理学という学問体系の冒頭に掲げる、その著者の科学者としての姿勢に大変な感銘を受けたのであった。“薬物は人体にとってほとんど常に異物であり、副作用のない薬は無い。”これは臨床医学の公理と言ってよい。新型コロナウイルスワクチンについても、これは真である。

本誌の2021年最初の号の巻頭言¹⁾で、“新型コロナウイルスパンデミックをワクチンで解決できると思うのは、妄想である”と断じた。現時点で分かっている生物原理に照らして洞察するならば、容易に導かれる予想であった。

案の定、新型コロナウイルスは次々と変異し、ワクチン接種率がとっくに国民の80%を超えても、なお第8波、感染拡大が収まらない。それどころか、ワクチン接種後の死亡症例は厚生労働省に報告されただけでも約2,000人にのぼり、健康被害は数万人に達する²⁾。

今まさにこの時にあって、データドリブンサイエンスとして、リアルワールドデータを我々はオープンサイエンススペースで解析して新しい知識を見いだすことができるのは天意としか思えない。新型コロナウイルスの感染状況やワクチン接種状況について、そしてアウトカムについて、我々はほぼリアルタイムで把握することが可能になっているのである^{2~4)}。

ファイザー社がFDAに提出した資料が裁判所の命令によって公開され、世にも信じがたい驚愕する事実⁵⁾を突き付けられた今、メッセンジャーRNA (mRNA) 脂質ナノ粒子新型コロナウイルスワクチンは正しく科学の無謀な技術応用であったと断じざるを得ない。このevil practice of scienceによる災厄にどう立ち向かうか？ 医師科学者として奈落に突き落とされた思いに駆られるのである。

改めて、科学者としてのあり方を謙虚に振り返りたい。

Scientists explore the world as it is, not as they would likely to be.

文献

- 1) 福島雅典. 巻頭言. 臨床評価. 2021 ; 48 Suppl XXXVII : 4-5.
<http://cont.o.oo7.jp/48sup37/48sup37editorial.pdf>
- 2) 福島雅典, 菊池貴幸, 平井由里子. 新型コロナウイルスワクチン接種者及び全医療関係者への警告と要請～新型コロナウイルスワクチン接種後5日目に心筋の横紋筋融解症によって突然死亡した28歳健康男性の事例をもとに. 臨床評価. 2023 ; 50 (4) : 507-42.
http://cont.o.oo7.jp/50_4/p507-42.pdf
- 3) 福島雅典, 平井由里子, 中谷英仁, 西村 勉. COVID-19ワクチン接種後の死亡と薬剤疫学的評価の概要 : 国民ベースの概観と提案. 臨床評価. 2022 ; 49 (3) : 499-517.
http://cont.o.oo7.jp/49_3/p499-517.pdf
- 4) 菊池貴幸, 中谷英仁, 平井由里子, 福島雅典. COVID-19ワクチンブースター接種でパンデミックを防止できるのか? 臨床評価. 2022 ; 50 (1) : 63-76.
http://cont.o.oo7.jp/50_1/p63-76.pdf
- 5) FDA-CBER-2021-5683-0000054
<https://phmp.org/wp-content/uploads/2021/11/5.3.6-postmarketing-experience.pdf>
(福島雅典)